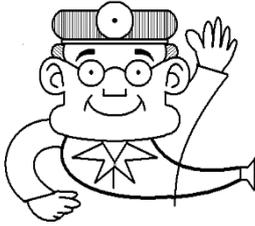


第199回 “いのち” を考える会 報告

—聴覚障害者の医療を考える会—



2025年2月27日(木) 18時30分～20時30分

神戸市立障害者福祉センター 会議室 B

参加者 23名 (うち聴覚障害者 4名)

テーマ：「高齢者が気をつけなくてはいけない
冬の気道感染症」

～咳、微熱、倦怠感が続くとき～

講師：土屋 貴昭 先生

(独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター
呼吸器内科部長 / 神戸市須磨区)



2024年はよく耳にしたマイコプラズマ肺炎、この年末年始に猛威をふるったインフルエンザ、未だに一定数の患者がいるコロナなどについて話していただきました。

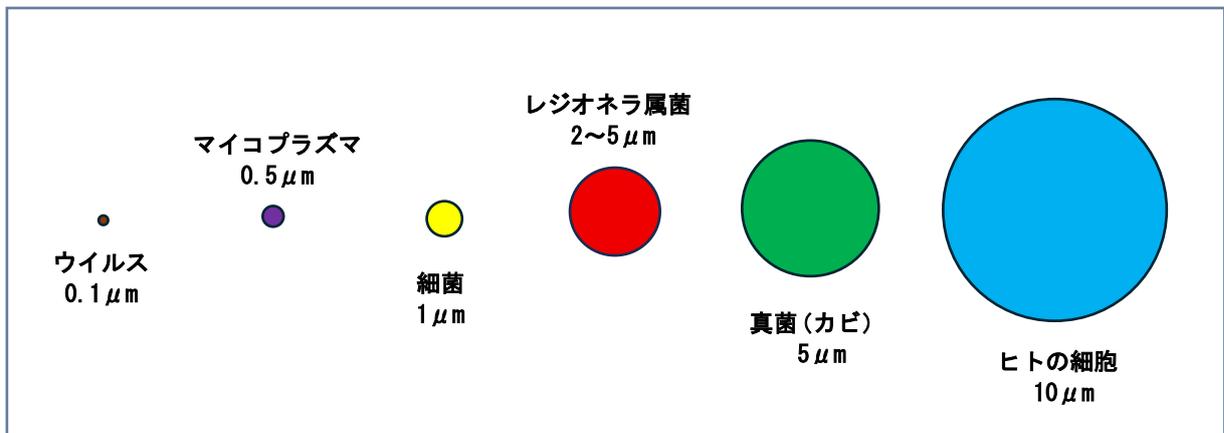
やはり感染を予防することが基本であり、手の消毒やマスク着用の必要性を改めて感じました。

土屋先生が講師をされるのは、第169回、第177回に引き続き、今回が3回目になります。手話通訳が交代する際に、交代し位置についてを確認してからお話されていたことが印象的でした。

●冬に気道感染症が増える理由

- ・気温が低く湿度が低い環境はウイルスが長く生き残りやすい
- ・乾燥した空気は、鼻や喉の粘膜を乾燥させて、防御機能を低下させる
- ・窓を閉めて暖房を使うので、換気する頻度が少なくなる
- ・寒さによって体温が下がると、体の免疫機能が低下する

●ウイルスや細菌などの大きさについて



- ・直径が $1\mu\text{m}$ (マイクロメートル) であれば、肺胞 (気管支が細かく枝分かれした先にある、酸素と二酸化炭素を交換する部分) まで到達する。
- ・ウイルス (コロナやインフルエンザ) は細菌の $\frac{1}{10}$ の大きさ。

●肺炎を起こす仕組み

空気と一緒に細菌やウイルスなどが入る

- 鼻毛や鼻の粘膜、喉の粘膜で大きな粒子をつかまえる
- 小さな粒子は気管に入るが、咳をすることで外に出す。残ったものは気管支に生えている線毛（せんもう）が捕らえて、外へ追い出す。
- 炎症がひどくなって呼吸器の防御機能を上回った場合や、病気やストレスのために免疫力が落ちている時などは、病原微生物が肺まで入り込んで感染し、肺炎になる。

●冬に多い気道感染症の具体例

インフルエンザウイルス

- ・ウイルス粒子内の核蛋白複合体の違いにより A・B・C の 3 つの型に分けられ、流行的な広がりをするのが A 型と B 型。
- ・主な症状は、38℃以上の高熱、咳、喉の痛み、筋肉痛、倦怠感など。
- ・ワクチン、抗ウイルス薬がある。2024 年に点鼻でワクチンができるようになったが、対象は 2 歳以上 19 歳未満に限定。

新型コロナウイルス (COVID-19)

- ・ウイルスの形が王冠に似ており、ギリシャ語で「王冠」を意味するコロナという名前がつけられた。
- ・ウイルスの毒性は弱くなったが、依然として感染者はいる。
- ・症状はインフルエンザウイルスに似ている。
- ・ワクチン、抗ウイルス薬（値段が高い！）がある。



RS ウイルス (Respiratory syncytial virus)

- ・乳幼児 (0~1 歳) は下気道感染を起こして重症化しやすい。
- ・高齢者は免疫力の低下などにより再感染しやすく、基礎疾患があると重症化しやすい。
- ・主な症状は鼻水、鼻づまり、咳、喉の痛み、微熱など。(風邪のような症状)
- ・治療は対症療法。
- ・近年、高齢者にワクチンが使用できるようになった。

ヒトメタニューモウイルス

- ・主に 1~3 歳の幼児や高齢者、免疫力が低下している人に呼吸器感染症を引き起こす。
- ・主な症状は鼻水、鼻づまり、咳、喉の痛み、微熱など。(風邪のような症状)
- ・治療は対症療法。

マイコプラズマ肺炎

- ・自己増殖可能な最小の微生物で、生物学的には細菌に分類される。他の細菌と異なり、細胞壁を持たないので、ペニシリン、セフェムなどの抗菌薬は効果がない。
- ・比較的若年層に多いが、高齢者にも感染することもある。
- ・主な症状は咳 (痰の出ない咳)、発熱、全身倦怠感、頭痛など。
- ・治療は抗生剤 (テトラサイクリン系、マクロライド系など)

※2024 年 10~12 月は観測史上最大の感染者数だった

感染予防の基本

- ・うがい、手洗い、マスクの着用
- ・歯磨きなどで口腔内を清潔にする
- ・誤嚥を防ぐ (よくかんで食べる)
- ・換気をする
- ・規則正しい生活をする
- ・持病の治療に努める
- ・タバコ (加熱式や電子タバコを含む) を吸っている人は、禁煙する
- ・予防接種を受ける

手洗い

- ・石けんと流水での手洗いは、手が見た目に汚れているときに行う。
- ・アルコール消毒は、手が見た目には汚れていないときに行う。

手洗い手順（泡石けん液）

SARAYA



SARAYA の HP より引用

●咳が続くときに考える病気

気管支喘息

- ・気道のアレルギーによる慢性の炎症がある状態。
- ・主な症状は、気道が狭くなることにより喘鳴（ぜんめい）、呼吸困難、咳など。
- ・夜中から明け方に症状が強くなり、咳や笛のようなヒューヒューという音がすることがある。

慢性閉塞性肺疾患（COPD）

- ・タバコの煙を主とする有害物質を、長期に吸入暴露することなどにより生じる肺疾患。
- ・主な症状は、慢性の咳や痰、徐々に進行する動いたときの呼吸困難。

※ほかに、肺がんや肺結核も疑われる病気です。

●講演後の質疑応答より

（ろう者の質問）

- Q. 喘息では呼吸をするときに「ヒューヒュー」と音がすると言われたが、ろう者にはその音が聞こえない。音以外で喘息と気管支炎を判断するにはどうしたらいいか？また、様子を動画に撮って、診察時に見せていいか？
- A. 咳がひどくて夜中に目覚めてしまったり、仰向けになって寝られないような状態になるが、それは喘息が重症になってからのこと。また、「ヒューヒュー」音がするのも、喘息の状態が悪くなってからであるし、音がする＝喘息ではない。睡眠を妨げるほどの咳ではなくても、咳が続いているようなら、病院で診てもらうことをお勧めする。
- 咳や呼吸している状態を動画に撮って、診察時に見せてもらえると伝わりやすいのでありがたい。
- Q. 今年に入ってから咳と痰が続いている。痰の色は黄色や白やある。これは肺炎なのか？
- A. 肺炎にはなっていないなくても、気管支炎の可能性はある。

